

はじめての 万葉集

日本に現存する
最古の和歌集「万葉集」を
わかりやすくご紹介します

vol.
126

古代の髪形

橘寺（現奈良県高市郡明日香村に所在）は、聖徳太子（厩戸皇子）の創建とされ、聖徳太子建立七大寺の一つと伝えられています。創建年代は不詳です。長屋は細長い建物のことですが、ここでは僧坊のことを指します。後述する左注にあるように、俗世間の人が寝る場所ではありませんでした。そのため、あえて逢い引きに利用したのでしょうか。

「うない」は「頸居」であり、お下げ髪のことです。『倭名類聚抄』には「髻髪和名宇奈井、俗に垂髪之二字を用ふ。童子の髪を垂るるを謂ふなり」とあります。七、八歳の少女の髪形でした。また、「はなり」は振り分けたお下げ髪のことです。こちらも少女の髪形でした。巻七（二二四四番歌）には「娘子らが放り

橘の 寺の長屋に わが率寝し

童女放髪は 髪上げつらむか

作者未詳 卷十六（三八二番歌）

の髪を木綿の山雲なたなびき家のあたり見む」とあり、少女が垂らした髪を結う様子が詠まれています。

「髪上げ」は、長くなつた髪を束ねて結い上げることです。髪を上げるとは成人女性となつたことを意味し、結婚可能な年齢に達したこと、あるいは結婚する意味にも用いられました。

本歌には左注が付いており、「右の歌は、椎野連長年脈て曰はく「それ寺家の屋は俗人の寝る処にあらず。また若冠の女を称ひて、『放髪』といふ。然らば腹句己に『放髪』といへれば、尾句に重ねて著冠の辞を云ふべからざるか」といへり」とあります。

椎野長年が診察していうには「そもそも寺の長屋は俗人の寝る所ではない。また、成人したばかりの女を『放髪』という。よつて、第四句に『放髪』といつてゐるのだから、末句に重ねて成人したことを示すことばを使うべきで

訳 橘寺の長屋に連れてきて寝た、童女放髪の少女は、もう髪上げして他の男と結婚したろうか。

はない」と批判が加えられています。作者がかつて想いを寄せていた少女について詠まれているということは、作者と少女の音信も途絶えてしまつていたのでしょうか。

（本文 万葉文化館 中本和）



万葉文化館 イベント情報

◆特別展 富本銭特別展示

天武天皇と（飛鳥・藤原）の文化

10月19日（土）～12月8日（日）

富本銭が造られた7世紀後半、天武天皇から持統天皇へと継承された飛鳥・藤原の文化を考古資料や美術作品を交えて紹介します。 ※県内在住、65歳以上の方は身分証明書を提示で半額。その他割引もあるのでお問い合わせください。



「富本銭」
（飛鳥池工房遺跡出土）
提供：奈良文化財研究所

◆特別展開連講演会

10月20日（日）14時～16時 開場13時30分 無料

「富本銭と飛鳥池工房」
石橋茂登さん（奈良文化財研究所飛鳥資料館 学芸室長）
「飛鳥池遺跡と万葉集」
井上さやか（当館企画・研究係長）
〔定員〕150人（要事前申込）

11月9日（土）14時～15時30分（開場13時30分） 無料

「飛鳥・藤原」と東アジアの仏像」
石松日奈子（当館参与・東京国立博物館客員研究員）
〔定員〕150人（要事前申込）

◆万葉集をよむ

10月23日（水）14時～15時30分 無料

「夏の雑歌（1）」（巻8・1465～1471番歌）
井上さやか（当館企画・研究係長）
〔定員〕150人（先着・申込不要）
※オンライン視聴（定員なし）は要申込

◆にぎわいフェスタ万葉 秋

開催中～12月4日（水）



奈良県立 万葉文化館
☎0744-54-1850
🌐www.manyo.jp